市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	優良雌牛導入事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容

肉用子牛の品質及びセリ価格を向上させることで、畜産農家の経営の安定化を図るため、優良繁殖雌牛の導入に係る経費を支援(補助)する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	22,925	25,000	35,000	25,000	19,738
	(b) 予算現額	22,925	25,000	28,045	16,496	16,855
	(c) 増減額(b-a)	0	0	−6,955	−8,504	−2,883
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	22,925	25,000	28,045	16,496	16,855
B. 執行済額		22,925	21,814	19,689	6,635	10,963
うち交付金充当額		18,340	17,451	15,751	5,308	8,770
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	87.3%	70.2%	40.2%	65.0%

予算の状況の説明　予算減額(▲2,883千円)及び不用額(5,892千円)が生じた理由は、飼料価格の高騰に伴う牛の導入控えに加え、市場価格の上昇により落札にいたらなかったことが主な要因である。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標(指標)		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
優良雌牛導入(頭)	目　標	50	79	55	35
	実　績	56	56	22	30

達成状況説明　・飼料価格の高騰に伴う牛の導入控えに加え、市場価格の上昇により落札に至らなかったことが主な要因である。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標(指標)		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
導入した優良雌牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合(%)	目　標		106以上	107以上	107以上	
	実　績		108	106	103	

進捗状況説明　・目標値には4ポイント達しなかったものの、平均価格は優良雌牛由来の子牛が672,810円に対して、その他の子牛は657,471円となり、本事業の効果は継続して発現しているものと考えられる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・市場全体でセリ価格に持ち直しの兆しが見られたが、飼育管理の方法等、購買者のニーズに即した生産に至らなかったことが目標値を下回った要因だと考えられる。 ・また、市場価格の回復局面において、生産技術の改善余地が浮き彫りになった。	・骨格形成および体格向上のための新たな飼養管理技術を確立するとともに、従来の管理手法の見直しを図り、販売価格の向上に繋げる必要がある。

今後の取り組み方針

今後は、セリに向けた育成期間の延長や、初期段階における飼育管理体制を強化し、一般牛との差別化を徹底する。あわせて、沖縄県農業協同組合との緊密な連携のもとで巡回指導等の支援を実施し、販売価格の向上を通じて優良繁殖雌牛の導入促進を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
24,287	10,963	8,770	2,193	13,324

久米島町
10,963千円
→
補助金
10,963千円
→
沖縄県農業協同組合
久米島支店
10,963千円
（久米島町優良繁殖雌牛導入事業補助金）

（ほか組合負担分（交付対象外経費）
13,324千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は交付要綱に基づき肉用牛（子牛）生産基盤の拡充、強化を図ることのできる沖縄県農業協同組合を選定しており、妥当であったと考えている。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、国勢等の影響を受け計画の大幅な縮小が生じた。 ○受益者は沖縄県農業協同組合久米島支店であり、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	久米島紬販売促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（10）-イ 地域資源を活用した特産品の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(4)

事業内容	久米島紬及び関連商品の売上増加を図るため、久米島紬事業協同組合が実施する久米島紬の新商品開発や販売促進、販路開拓等の活動を支援（補助）する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,106	2,287	2,560	2,605	2,605
	(b) 予算現額	2,106	3,187	2,560	2,605	2,605
	(c) 増減額 (b-a)	0	900	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	2,106	3,187	2,560	2,605	2,605
B. 執行済額		1,668	2,752	1,958	2,490	1,868
うち交付金充当額		1,334	2,201	1,566	1,992	1,494
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		79.2%	86.4%	76.5%	95.6%	71.7%

予算の状況の説明：需要の高いかりゆしウェアの開発を重点的に取り組み、プリント生地を採用したことで事業費を抑制できたため、不用額（737千円）が生じた。また、どぅじんに利用する反物を既存のものに代えたことで原材料費が不用となった。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
物産展等への出展（回）	目　標	出展	出展	出展	出展2
	実　績	3	1	4	5
呉服店（問屋）へのセールス（回）	目　標	実施	実施	実施	実施2
	実　績	1	0	0	1
新商品の開発（試作品）（着）	目　標	ウェディング1 琉装2	子ども用着物製作	夏用着物10	10
	実　績	ウェディング1 琉装2	子ども用着物8	10	どぅじん5かりゆし8
アドバイザーの招聘（回）	目　標	招聘	招聘	招聘	招聘1
	実　績	3	3	9	9

達成状況説明：
・県内外の物産展は、県内1回、県外4回出展した。
・呉服店（問屋）へのセールスは、トップセールスで京都の問屋や呉服店を訪問した。
・新商品開発は、帯をせずに腰紐を結ぶだけで着用ができるどぅじんと、オフィスやカジュアルでも着れるかりゆしウェアを製作した。
・アドバイザーを招聘し、顧客管理や小物類の見直し、価格設定等に関する研修や勉強会を9回実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
久米島紬及び関連商品の年間売上高 反物売上額（万円）	目　標		6,446以上	6,500以上	6,500以上	
	実　績		6,466	6,900	6,600	
久米島紬及び関連商品の年間売上高 小物売上額（万円）	目　標		1,174以上	1,400以上	1,400以上	
	実　績		1,630	1,600	1,851	

進捗状況説明：
・反物売上額は、目標値を上回ったが昨年度の実績値を下回った。昨年度は国の重要無形文化財指定20周年記念にあたり、より多くの販売機会を得ていたことが売上増に起因したと考えられる。
・小物売上額は、目標値を大幅に上回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・反物の販売機会については、問屋セールス及び物産展出展が前年度と比較して増加したことに加え、反物の販売単価の見直しにより単価を上げたことで売上額が目標値を上回ったものと考えられる。 ・SNS等による情報発信の強化により、目的意識を持って来店する観光客が増加したことや、クルーズ船の寄港等により販売ショップの利用者数が増えたことが小物売上額の目標値を達成した主な要因と考えられる。	・展示販売会やイベント出店等、消費者と直接接点を持つ機会を拡充することで、購買機会の創出および販売機会の最大化を図っていく必要がある。 ・現在の観光ニーズに対応した小物商品の開発・製作を引き続き推進するとともに、来店につながる導線づくり（情報発信、周遊促進等）を強化する必要がある。

今後の取り組み方針

・島内外における展示販売会や催事出店の機会を拡充し、消費者へ直接久米島紬の魅力を訴求することで、販路拡大および売上向上を図る。
・過去の販売実績や売れ筋商品の傾向、観光客ニーズの分析結果を踏まえ、久米島紬関連商品の開発を継続的に推進し、あわせてSNS発信の継続や観光客の来訪が見込まれる空港・港湾・宿泊施設等での情報発信を強化することでショップへの誘客につなげる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費			交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,077	1,868	1,494	374	209

久米島町 1,868千円 → 補助金 1,868千円 → 久米島紬事業協同組合 1,868千円（久米島紬販売促進事業補助金）

（ほか、組合負担分（交付対象外経費）209千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金交付団体は織子が構成する組合を選定しており、妥当であったと考える。 ○開発商品の仕様変更等により、原材料費を抑制したことで不用が生じたものの、商品開発の過程においては原材料費の変動が見込まれることから、予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模であった考える。 ○補助金交付団体は、総事業費の1割を負担しており、事業内容や他事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目・使途については精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	久米島特産品販路開拓事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（10）-イ 地域資源を活用した特産品の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（4）
事業内容	久米島産の特産品の売上の向上を図るため、久米島商工会が行う特産品の販促活動やPR活動を支援（補助）する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,367	8,538	5,793	10,014	13,312
	(b) 予算現額	8,367	8,538	8,004	10,014	10,726
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	2,211	0	-2,586
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	8,367	8,538	8,004	10,014	10,726
	B. 執行済額	4,456	8,220	8,004	9,715	10,382
	うち交付金充当額	3,654	6,576	6,403	7,771	8,305
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率（%）（B/A）	53.3%	96.3%	100.0%	97.0%	96.8%

予算の状況の説明：予算2,586千円の減額は、予定していた催事場の確保および開催時期の調整が困難となったため、開催を断念したものである。
不用額344千円は、県内イベントの経費が減額になったことに伴うものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
県内外での物産展開催、出展	目　標	5回	5回	6回	県内3回、県外2回
	実　績	5回（県内3回、県外1回）	4回（県内2回、県外2回）	7回（県内4回、県外3回）	8回（県内3回、県外5回）

達成状況説明：・県内物産展3回、県外物産展出展2回、県外対象の商談会へ3回参加し取引先の新規開拓を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
開催、出展した物産展における島特産品の販売額（万円）	目　標		1,932以上	2,560以上	3,020以上	
	実　績		2,022万円	3,096万円	2,838万円	

進捗状況説明：・売上目標3,020万円に対して実績2,838万円と、目標を達成することができなかった。

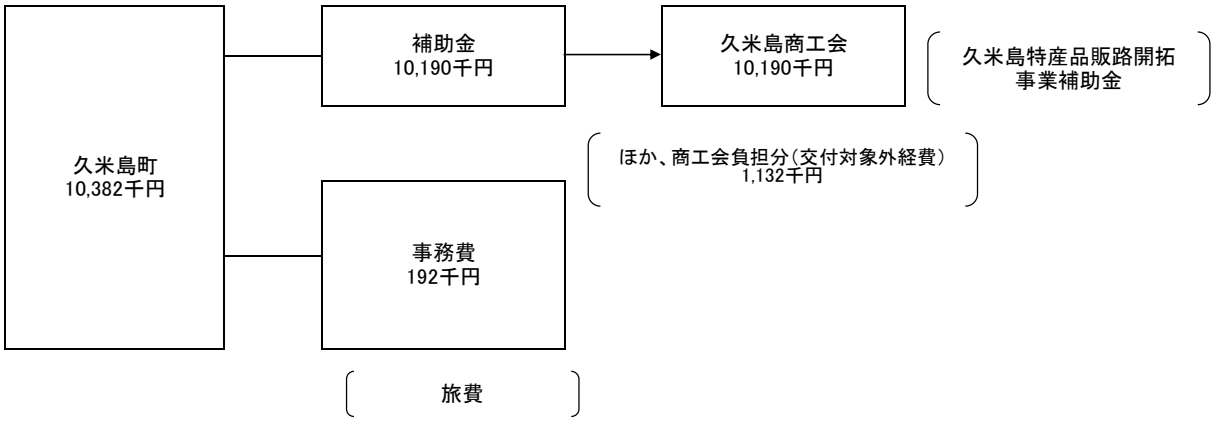
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県内物産展において来場者数が昨年度より減少（△15,5%）したことが目標を達成できなかった主な要因と考えられる。	・商談会に注力したことで物産展のPRが不足し、来場者数の減少に繋がったと考えられるため、積極的に物産展のPRを行う必要がある。また、県内外のターゲット設定も明確化したうえで、効率的なPRにも取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

・特産品販売のターゲットを設定し、参加する物産展や商談会を再検討するほか、県外開催の物産展・商談会については依然、関東圏に偏っていることから関西圏においても実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費			交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
11,514	10,382	8,305	2,077	1,132



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は商工会であり、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。 ○物産展等開催する上で必要な経費であり適正な規模であった。 ○受益者である商工会は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断して妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査をしており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	観光誘客促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

久米島の知名度向上、観光客の利便性向上及び観光閑散期の誘客を図るため、観光イベントの開催や、県内外における久米島観光等の宣伝活動の実施、久米島空港に観光案内所の開設を行うほか、MICE受入に向けた受入体制の強化に取り組む。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,119	8,119	23,421	28, 464	20, 390
	(b) 予算現額	8,119	11,136	21,248	16, 653	11, 778
	(c) 増減額 (b-a)	0	3,017	-2,173	-11,811	-8,612
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	8,119	11,136	21,248	16,653	11,778
	B. 執行済額	6,275	9,256	18,808	15,040	11,128
	うち交付金充当額	5,020	7,405	15,046	12,031	8,902
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率 （%） (B/A)	77.3%	83.1%	88.5%	90.3%	94.5%

予算の状況の説明

予算8,612千円の減額は、委託業務の執行残が生じたこと、高速船の就航時期延長に伴い兼城港の観光案内所設置の経費が見直されたことによるものである。
不用額650千円は、精算時に生じた旅費、会場使用料等の執行残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
久米島空港観光案内業務	目　標	開設	開設	開設	2箇所開設
	実　績	開設	開設	開設	1箇所開設
観光広報活動	目　標	県内4件 県外1件	県内3件 県外1件	県内3件 県外2件	5回
	実　績	県内2件 県外0件	県内3件 県外2件	県内3件 県外2件	6回
MICE受入体制強化業務	目　標			備品購入	
	実　績			備品購入	
島内フォトスポット整備	目　標				1箇所
	実　績				1箇所

達成状況説明

・久米島空港観光案内業務は、高速船の就航に向けて新しく兼城港にて観光案内所の設置を予定していたが、就航時期延期に伴い1箇所（空港）のみの開設となった。
・観光広報活動は、県内外で開催されるイベントに計6回参加し、効率的に広報活動をすることができた。
・新たな誘客対策として、島内3箇所にフォトスポットの整備を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
久米島に旅行でいま訪れてみたいと回答した割合（%）	目　標		80以上	80以上	80以上	
	実　績		98	99	98	
MICE年間受入件数（件）	目　標			36	37	
	実　績			2	14	

進捗状況説明

・イベント出店時のブース来訪者にアンケートを実施し、久米島に訪れてみたいと回答した方が98%となり目標を達成できた。
・MICE年間受入件数は、昨年から12件増加したが、目標を大幅に下回った。

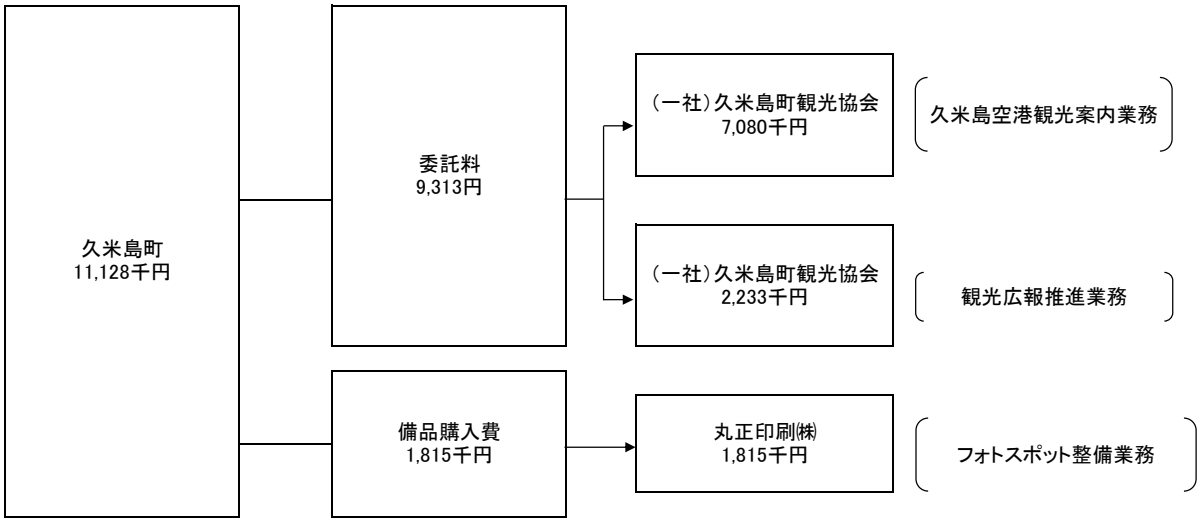
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・島外での久米島観光等の宣伝活動を通じて、久米島ならではの魅力を発信できたことが目標の達成の要因だと考えられる。 ・前年度にMICE受入体制を整えるためプロジェクターの設置を行ったが、受入実績の創出に直結する誘致活動や情報発信が十分に行えておらず、昨年度と比較し12件増加したが、目標を下回る結果となった。	・久米島観光等の宣伝効果を検証し、誘客対策につなげるため、本町に訪れた観光客を対象として、来島のきっかけに関する調査を実施する必要がある。 ・MICE受入に繋げるための情報発信や誘致活動が不十分であったため、利用者が情報にたどり着けるような導線作りが必要がある。 ・フォトスポットの存在が認知されるようなプロモーション活動を実施していく必要がある。

今後の取り組み方針

・本事業による宣伝活動から、来島につながった観光客の実態把握に向け、観光事業者と連携してアンケートを実施していく。
・MICE受け入れについては、既存の受入環境を活用しながら、誘致に向けた情報発信の強化に取り組む。また、観光協会のホームページに掲載しているMICE関連ページへアクセスがしやすくなるようトップページに掲載するなど、導線を改善し認知度の向上および利用促進を図る。
・観光協会のSNSを積極的に活用し、フォトスポットの魅力を発信することで認知度の向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,128	11,128	8,902	2,226	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約、備品購入は一般競争入札で選定しており妥当であったと考えている。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、精算時に旅費、会場使用料等の不用額が生じた。 ○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	体験交流型観光商品開発販売促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

観光消費額の増加を図るため、観光閑散期における教育旅行等の団体客誘致に向けて、誘致活動や、体験プログラムのガイド育成、販売促進に取り組む。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	9,998	9,998	15,369	19, 187	18, 737
	(b) 予算現額	9,998	14,244	14,586	17, 665	16, 788
	(c) 増減額 (b-a)	0	4,246	-783	-1,522	-1,949
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	9,998	14,244	14,586	17,665	16,788
B. 執行済額		6,154	12,468	13,902	16,275	15,488
うち交付金充当額		4,923	9,974	11,122	13,019	12,390
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		61.6%	87.5%	95.3%	92.1%	92.3%

予算の状況の説明：予算1,949千円の減額は、修学旅行受入人数の減少や担当者招聘旅費の下方修正によるものである。
不用額1,300千円は、精算時の旅費の執行残に伴うものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
教育旅行誘致活動（回）	目　標		13	12	5
	実　績		3	15	19
教育旅行誘致数（校）	目　標		12	13	15
	実　績		9	15	11
受入人数（人）	目　標		1,300以上	1,500以上	2,150以上
	実　績		1500	1,866	1,487
観光体験プログラムの販売促進	目　標	実施			
	実　績	実施			
民泊受入体制の整備、強化	目　標	実施			
	実　績	実施			

達成状況説明
・教育旅行誘致活動は、予算の範囲内で19回実施することができた。
・教育旅行誘致数及び受入人数は、いずれも目標値を下回った。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
一般：観光体験プログラム売上額（円）※教育旅行以外	目　標		1,853,511以上	1,607,174以上	2,456,630以上	
	実　績		2,189,050	1,268,780	984,150	
教育旅行：観光体験プログラム売上額（円）	目　標		9,140,653以上	7,245,752以上	13,825,085以上	
	実　績		13,794,110	16,359,640	12,298,973	

進捗状況説明
・一般は、目標値を下回り、前年度から284,630円減少した。
・教育旅行は、目標値を下回り、前年度から4,060,667円減少した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・一般（教育旅行以外）向けの情報発信はホームページやSNSによる情報発信を行ったものの、観光客に十分に情報が行き届かなかったことが売上目標に届かなかった主な要因と考えられる。 ・教育旅行については、新規体験プログラムの案内を通じて、多岐にわたる選択肢を提案することで魅力アップにつなげた。一方、教育旅行の送客は、大半を1社が占めていることが売上額に影響していると考えられる。	・観光体験プログラムは、小規模かつ兼業の事業者が運営しているため、事前の申し込みがないと対応が難しい。そのため、来訪者には早めに旅程を計画し、体験プログラムを組み込むよう周知していく必要がある。 ・教育旅行は、送客元の多様化を図る必要があるほか、新たな体験プログラムや地域特有の体験を継続的にPRしていく必要がある。

今後の取り組み方針

・久米島旅行を計画する方が閲覧するサイトで、旅程の早期検討を促し、令和6年度に構築した観光体験プログラムのインターネットサイト（予約から決済まで完結可能）を活用し利用者の確保につなげる。また、新規体験プログラムや地域特有の魅力を継続的に発信し、一般観光体験プログラムの売上増加を図る。
・教育旅行については、受入人数や校数の減少、特定の旅行社への依存といった課題の解消に向け、他県や新たな旅行社への営業活動を強化していく。また、バス運行の制約や食物アレルギーの対応など、受入体制を見直すことで年間を通した安定的な誘客による地域観光の活性化を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,488	15,488	12,390	3,098	0

久米島町
15,488千円
→
委託料
15,488千円
→
（一社）久米島町観光協会
15,488千円
（体験交流型観光商品開発販売促進事業委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、精算時に旅費、修学旅行受入に係る数量の減が生じ不用額が生じた。 ○費目・使途について、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認を行い適正であったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	久米島観光ブランディング事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	令和4～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	観光消費額の増大を図るため、「食」をテーマとした久米島観光の高付加価値化による久米島の認知度や、食の満足度の向上に向けて、ご当地グルメの開拓や販売促進等に取り組む。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	9,295	13,068	13,211	15,103	
	(b) 予算現額	9,295	11,979	11,668	11,154	
	(c) 増減額 (b-a)	0	-1,089	-1,543	-3,949	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	9,295	11,979	11,668	11,154	
B. 執行済額		7,040	10,125	8,210	10,923	
うち交付金充当額		5,632	8,100	6,568	8,738	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		75.7%	84.5%	70.4%	97.9%	

予算の状況の説明：予算3,949千円の減額は、人件費の減少および広告宣伝費の見直しや、旅行会社サイト掲載の見送りによるものである。
不用額231千円は、旅費や広告宣伝等の執行残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ご当地グルメの新規参加（店舗）	目　標	2	2	3	6
	実　績	1	0	8	7
新たな特産品・お土産物の開発（件）	目　標	2	2		
	実　績	0	0		
県内外プロモーション活動（回）	目　標			2	
	実　績			2	
ご当地グルメ、お土産の販売促進	目　標				2
	実　績				3
島内飲食事業者勉強会の開催	目　標				2
	実　績				3
ブランド保持に向けた商標登録や飲食店組合の設立	目　標				設立
	実　績				商標登録1件 組合未設立

達成状況説明
・新たに7事業者を追加し、県内外で効果的なプロモーション活動を行うことができた。
・ご当地グルメ、お土産の販売促進として、県内外3イベントに出店した。
・島内飲食店向けの勉強会は3回実施することができた。
・ブランド保持に向けた商標登録は1件実施できたものの、飲食店組合の設立については、事業者間での足並みをそろえる必要があったことや、ご当地グルメの基盤強化に注力したため、未達成となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（年度）
観光消費額　食事・お酒（円）	目　標		12,851	13,351	15,586	
	実　績		14,135	11,324	23,365	
観光消費額　お土産・買い物（円）	目　標		8,329	8,829	9,152	
	実　績		8,957	7,203	10,656	

進捗状況説明
・観光消費額　食事・お酒は、PRイベントや、プロモーション等を実施し、目標値に対して7,779円上回った。
・観光消費額　お土産・買い物は、本事業による取組の実施はないが、目標値に対して1,504円上回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・昨今の物価高騰に加え、観光客の消費意欲の高まりや、ご当地グルメのSNS発信、スタンプラリーによる回遊効果が購買促進に寄与したと考えられる。	・県外での認知度向上を図るため、プロモーション活動を強化し、島の食材や料理の魅力を広く伝える必要がある。 ・体験型食事のPRや、島の食材を活用した付加価値の高い料理の認知度向上、提供する食の選択肢の拡大が必要。

今後の取り組み方針

・島の食材や料理の魅力をより多くの人に伝えるため、生産者・飲食事業者・消費者をつなぐ取り組みを進める。
・SNSを活用し体験型食事や島の食材を活用した料理の情報発信を強化し、ご当地グルメの未参加事業者への説明・参加を促進することで、消費機会の創出や観光消費の促進につなげていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,923	10,923	8,738	2,185	0

久米島町 10,923千円 → 委託料 10,923千円 → （一社）くめじまDMO 10,923千円 （久米島観光ブランディング事業委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な予算規模であった。 ○費目・使途について、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認を行い適正であったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-④	アウトドアツーリズム展開促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（2）-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	令和5～8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（1）

事業内容

久米島観光における付加価値の創出を通じた新たな顧客層の誘客を図るため、新たな旅のスタイルとして注目されているアウトドアツーリズムを、奥武島キャンプ場を拠点に商品化し販売促進する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	9,607	7,483	7,285		
	(b) 予算現額	7,482	7,916	8,785		
	(c) 増減額 (b-a)	-2,125	433	1,500		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	7,482	7,916	8,785		
B. 執行済額		6,639	7,916	8,785		
うち交付金充当額		5,311	6,332	7,027		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）（B/A）		88.7%	100.0%	100.0%		

予算の状況の説明：計画どおり予算を執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
アウトドアツーリズムの商品化（件）	目　標	5	5	3	
	実　績	3	4	3	
アウトドアツーリズム商品の販売促進	目　標	実施	実施		
	実　績	実施	実施		
民間事業者による奥武島キャンプ場の管理運営	目　標	実施	実施		
	実　績	実施	実施		

達成状況説明：・アウトドアツーリズム商品3件の開発を目標として取り組み、①グリーンツーリズム（稲刈り体験ツアー）、②ウェルネスツーリズム（焚火・リトリート）、③ツリーテント宿泊プランの3件の商品開発を行った。そのほか、地域事業者と連携した地域資源活用型の食のイベントやシーズンに合わせた交流イベントを行い、キャンプ場の認知度向上を図った。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（H30年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
奥武島キャンプ場の利用者数（人）	目　標	872	1,000	1,200	1,500	
	実　績		1,399	1,637	1,585	

進捗状況説明：・令和6年度の実績を勘案し、キャンプ場利用者数の目標値を1,500人としたが、団体利用やイベント実施などにより、目標を上回る1,585人の利用があった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・R7年度は利用者の利便性、満足度の向上に向けて管理棟内で宿泊できるよう整備を行ったこと、島内団体等への認知が進み利用が拡大したこと、またキャンプ場で企画したイベントの実施により来場者数が増加したことが、目標値を上回った主な要因だと考えられる。	・島内利用の増加は見られる一方で、島外からの観光客の利用割合は十分とは言えない状況であることから、島外からの誘客を強化し、観光客等にも多く利用してもらうようにする必要がある。

今後の取り組み方針

・島内の観光事業者や旅行事業者との連携を強化し、新たなコンテンツ開発や旅行商品を造成するとともに、SNS等を活用した情報発信・PRの強化に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,785	8,785	7,027	1,758	0

久米島町 8,785千円 → 委託料 8,785千円 → 合同会社PLUCK 8,785千円

（アウトドアツーリズム展開促進事業業務委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○費目・使途について、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認を行い適正であったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑤	観光地等環境美化強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア 「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進
担当部課名	環境保全課	事業実施（予定）年度	令和5～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(1)

事業内容

観光地として利用されている広場等の環境美化作業を実施し、魅力的な観光地としての景観を形成することで観光客等の満足度向上を図る。

効果発現年度

■当年度　□後年度（　年度）

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	46,596	56,219	65,039		
	(b) 予算現額	47,966	59,498	64,877		
	(c) 増減額 (b-a)	1,370	3,279	−162		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	47,966	59,498	64,877		
B. 執行済額		47,966	59,498	62,886		
うち交付金充当額		38,372	47,598	50,309		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	96.9%		

予算の状況の説明：予算162千円の減額は、勤続年数の短い任用職員を採用したことに伴う人件費の減額である。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
環境美化作業の実施	目　標	町内45か所	町内45か所	町内45か所	
	実　績	町内46所	町内46か所	町内46か所	

達成状況説明：・観光地及び関連施設・公園等へのアクセス道路の草刈り等の環境美化作業を計画どおり実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
観光地として魅力的な景観であると回答した観光客の割合（%）	目　標		80以上	80以上	80以上	
	実　績		85..7	87.3	97.9	

進捗状況説明：・観光客に対しアンケートを実施し、昨年に引き続き目標値を上回る結果が出ており、満足できる評価を得ている。

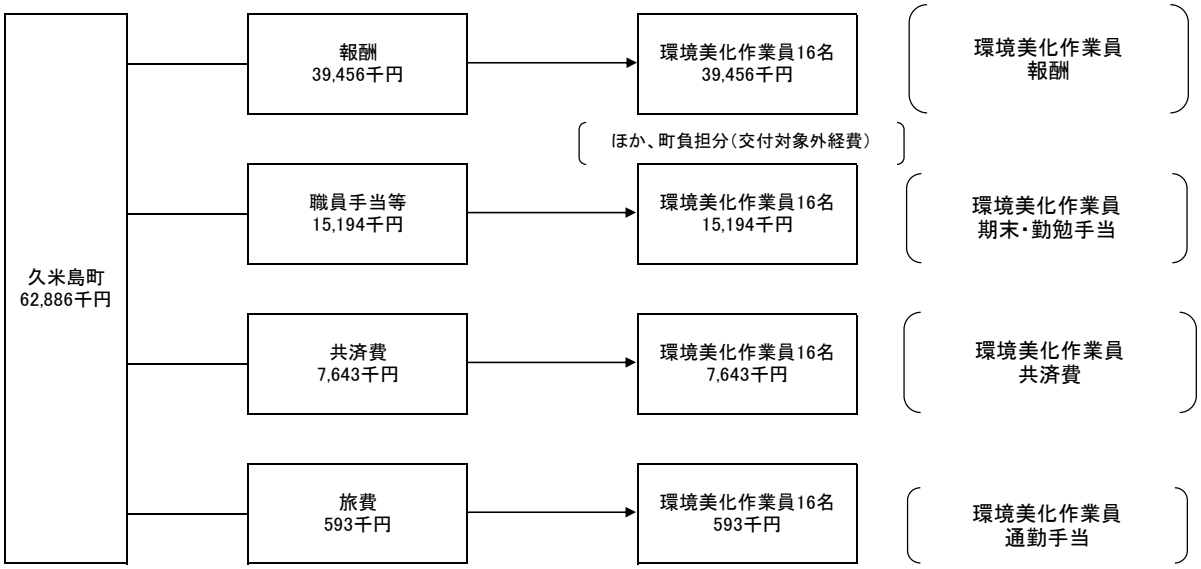
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・年間を通して観光地やその関連施設、アクセス道路の環境美化作業を実施し、雑草の繁茂防止や、枯葉、枯れ枝等の除去により観光地としての景観を持続してきたことが目標を上回った要因と考えられる。	・梅雨明けから夏場にかけては雑草等の繁茂が早く、それに伴いハブの咬傷被害の発生が考えられるため、より効果的で効率的な環境美化作業を実施し、観光地としての景観維持や観光客等の安全を確保していく必要がある。

今後の取り組み方針

・観光地等へのアクセス道路において、雑草等の繁茂が著しい箇所とそうではない箇所の区別をし、美化作業実施の頻度を見直すことで作業の効率化を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
63,181	62,886	50,309	12,577	295



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○久米島町会計任用職員任用規定に基づき採用しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は、観光地等環境美化強化事業を推進するうえで、妥当な規模であったと考える。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑥	スポーツコンベンション推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア ｽﾎﾟｰﾂ関連産業の振興と地域の活性化
担当部課名	環境保全課	事業実施（予定）年度	令和5～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

野球場や多目的運動場等のスポーツ施設をプロ野球チーム等がキャンプを実施できる水準に整備し、観光閑散期にスポーツキャンプ・合宿を誘致することで、観光・サービス業を中心とした域内経済の活性化を図る。

効果発現年度　■当年度　□後年度（令和　年度）

実施方法　■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	23,446	52,592	40,402		
	(b) 予算現額	23,436	84,185	40,402		
	(c) 増減額 (b-a)	-10	31,593	0		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	23,436	84,185	40,402		
B. 執行済額		23,436	84,185	39,124		
うち交付金充当額		18,749	67,348	31,299		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	96.8%		

予算の状況の説明：計画どおり執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
野球場、多目的運動場の高品質（透水性・硬度・均一性等）な土・芝生の整備・管理	目　標	整備・管理	整備・管理	整備・管理	
	実　績	整備・管理	整備・管理	整備・管理	
仲里野球場屋内練習場（大型テント）設置	目　標		実施		
	実　績		実施		
久米島野球場バックスクリーン塗装	目　標		実施		
	実　績		実施		
仲里野球場防球ネット設置	目　標		実施		
	実　績		実施		
セーフティフェンスの改修実施設計業務	目　標			実施	
	実　績			実施	
トレーニング機器の整備	目　標			整備	
	実　績			整備	

達成状況説明：
・土・芝生管理については、専門的な知識や技術のある業者に委託し整備を進めた結果、事業開始時より状態が改善している。
・安全性を高めるために野球場のセーフティフェンス改修に係る実施設計業務を行った。
・トレーニング機器を新たに整備し、高水準で効果的なトレーニングの実施が可能となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（R4年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
スポーツキャンプ・合宿受入件数（件）	目　標	8	10	11	11	
	実　績		8	10	10	

進捗状況説明：
・R6年度と同様の件数を受け入れることができたが、目標値をわずかに下回った。

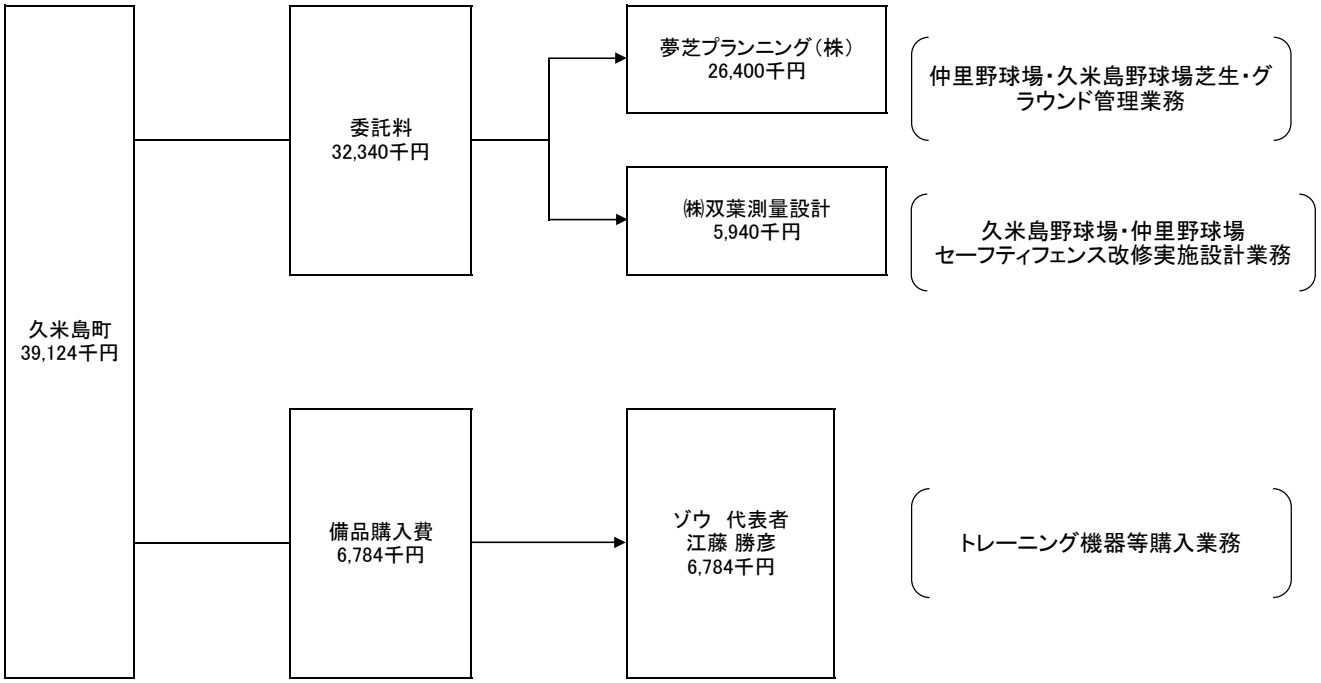
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本事業により競技環境等を改善・向上したことで、スポーツキャンプ・合宿団体から良い評価を受けているものの、プロ野球球団のキャンプ実施決定時期の関係で、大学・社会人団体の誘致が必ずしも十分にできなかったことが目標未達成の要因として考えられる。	・トレーニング機器の整備に伴い、効率的で効果的なトレーニングの実施につながっているほか、2球場同時に異なる団体の合宿を受入れることで、対外試合（練習試合）等の実施が可能となり、キャンプ地としての魅力も高まっていることから、12月から3月までの期間に余すところなく誘致できるように工夫する必要がある。

今後の取り組み方針

・引き続き、キャンプ地として選ばれる競技環境や条件面の改善・向上に取り組むとともに、プロ野球球団のキャンプ決定を早期に行うことで、大学・社会人の合宿等の計画的な誘致が可能となることから、球団側との調整を早期に進め、受入団体の増加を図っていく。
・成果目標を合宿受入件数としているが、域内経済の活性化を図る観点から、キャンプ期間中の受入人数や延実施日数等を勘案した効果の算出方法を検討したい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
39,124	39,124	31,299	7,825	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約相手は指名競争入札又は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模はスポーツコンベンション事業を推進するうえで、妥当な規模である。 ○費目・使途については完了の際に検査・確認をしており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑦	久米島まつり活性化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	環境保全課	事業実施（予定）年度	令和7～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	久米島来島の契機となり得る魅力的な久米島まつりを開催することで、観光地としての認知度の向上及び入域観光客数の増加を図る。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（令和　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
予算の状況	(a) 当初予算額	35,420				
	(b) 予算現額	35,420				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	35,420				
B. 執行済額		35,399				
うち交付金充当額		28,319				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.9%	#DIV/0!	#DIV/0!		
予算の状況の説明		事業計画に基づき、概ね予定どおり執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
久米島まつり開催	目　標	開催			
	実　績	開催			
達成状況説明	・予定どおり開催し、観光誘客及び地域経済循環の創出につながった。				

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（R年度）	R7年度	R8年度	R9年度	目標値（　年度）
久米島まつり来場者数（人）	目　標		9,300			
	実　績		9000			
進捗状況説明	・来場者数について、R4年度は町政20周年事業として特別要因により増加したが、その後は通常開催や天候の影響により減少傾向にあった。令和7年度は実施手法の見直しや内容の充実を図った結果9000人と回復し、目標値をわずかに下回ったものの、過去の推移を踏まえると概ね順調に進捗している。					

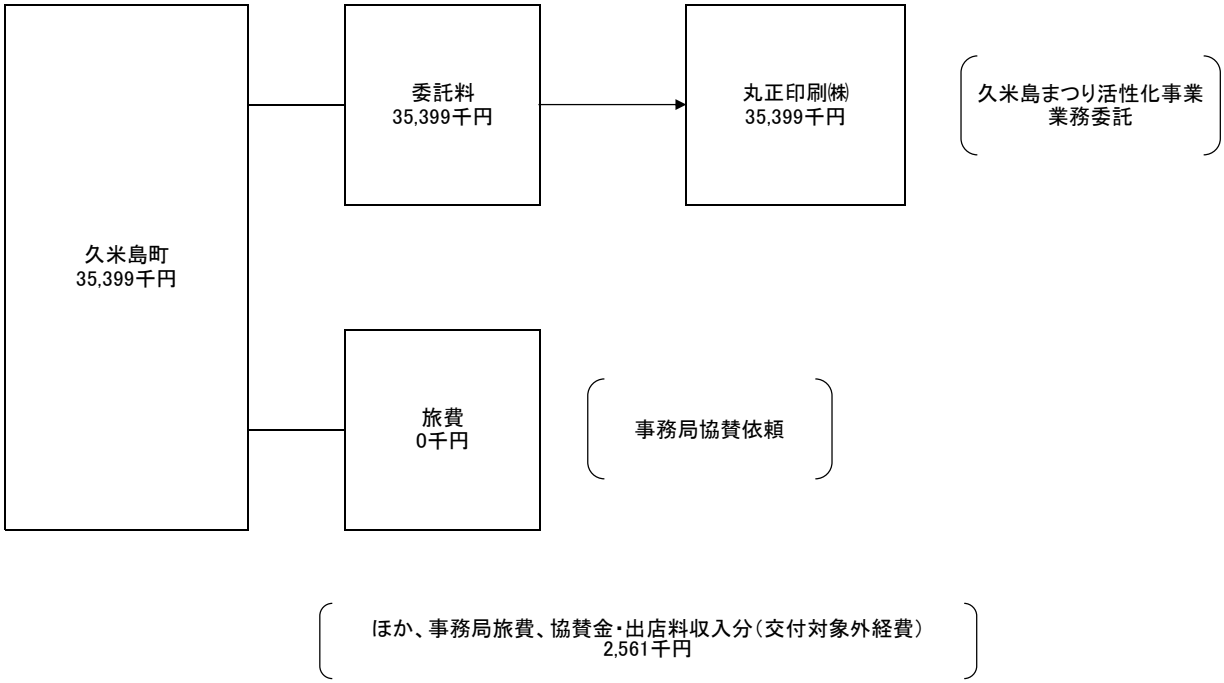
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・天候に加え、航空便及びフェリーの運航状況により来場者数が大きく左右されている。航空便は需給状況に応じた増便判断となるため、予約状況の動向が来島者数に影響を及ぼすほか、フェリーについてもドック期間と重なるため運行便数が制限されるなど、外部環境による制約がある。こうした交通アクセスの制約から目標値には達しなかったと考える。	・航空便の増便は予約状況に依存することから、早期の需要喚起により交通手段の確保につながる取組を進める余地がある。加えて、フェリーの運行条件も踏まえた来訪日の検討を促すことで、来場者数の最大化を図る必要がある。

今後の取り組み方針

・早い段階での需要喚起を目的に、まつりの日程を早期に公表することで、航空便の増便やフェリー利用の最適化につなげる。
・久米商船やJTA/RAC等の関係事業者と連携し、交通手段に関する情報発進を強化することで、交通手段の制約による来場機会の損失防止を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
37,960	35,399	28,319	7,080	2,561



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託者（契約先）は公募型プロポーザル方式でで選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模はまつり活性化事業を推進するうえで、妥当な規模である。 ○費目・使途については完了の際に検査・確認をしており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	基礎学力向上学習支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－(2)－ア 確かな学力を身に付ける学校教育の充実
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	児童の学力向上を図るため、小学校に基礎学力向上学習支援員を配置し、国語・算数を中心に学習未定着の児童に支援を行う。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,781	9,174	8,712	10,521	11,688
	(b) 予算現額	8,763	9,196	7,882	10,521	10,548
	(c) 増減額 (b-a)	−18	22	−830	0	−1,140
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	8,763	9,196	7,882	10,521	10,548
B. 執行済額		8,713	7,782	7,882	9,844	7,708
うち交付金充当額		7,010	6,225	6,306	7,875	6,166
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		99.4%	84.6%	100.0%	93.6%	73.1%

予算の状況の説明：支援員を3人雇用する予定であったが、2人の採用にとどまったため2,840千円の不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
基礎学力向上学習支援員を配置（名）	目標	3	3	3	3
	実績	3	3	3	2

達成状況説明：採用予定3人に対し、継続的に募集を行ったが2人の採用にとどまった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（年度）
沖縄県到達度調査における平均正答率の県平均との差(県主催の調査（ポイント）※R4年度までは（点）	目標		±0以上	3.5以上		
	実績		2.1	2.3		
小学5、6年生の沖縄県到達度調査における国語・算数の平均正答率：県平均以上	目標				±0以上	
	実績				＋7.1	
小学4年生の学びのたしかめにおける国語・算数の平均正答率：県平均以上	目標				±0以上	
	実績				＋2.6	

進捗状況説明：
・小学校5.6年生対象に実施した学力到達度調査において、県平均に対して+7.1ポイントとなり、目標値を大幅に上回った。
・学びの確かめは算数のみの実施であるが、+2.6ポイントとなり県平均を上回った。

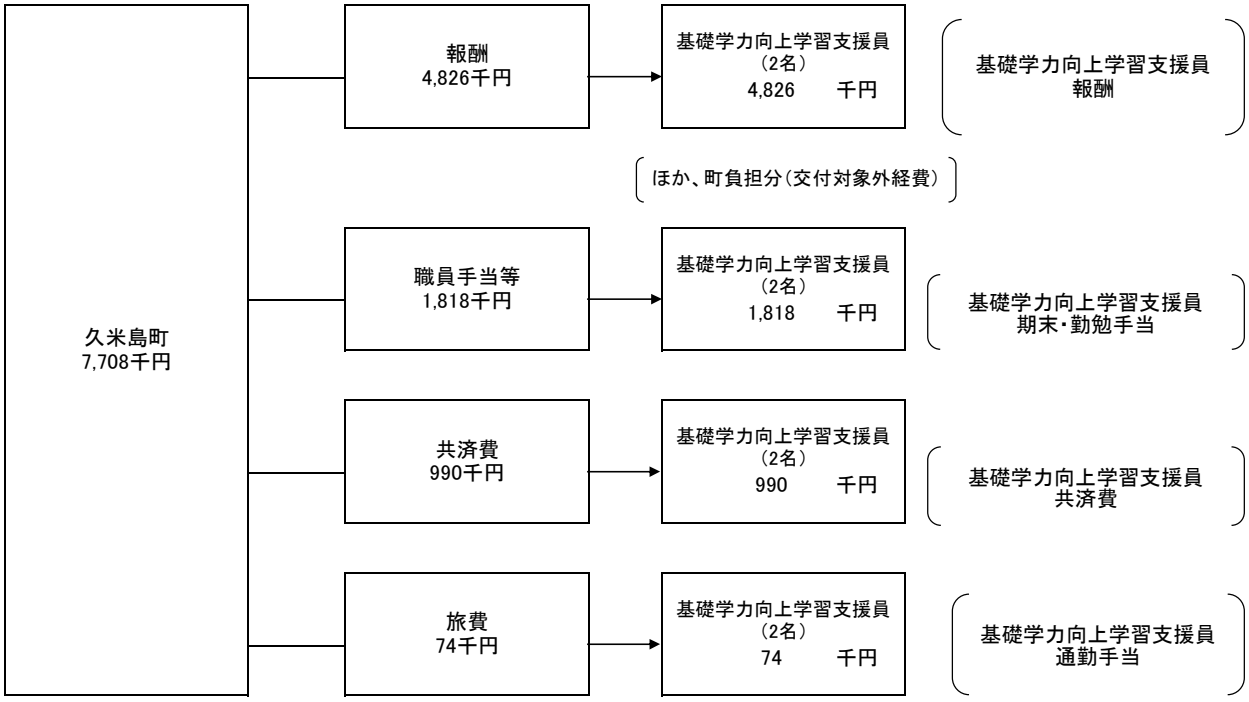
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・国語・算数において県平均を上回っており、授業運営の補助を継続的に行ったことが一定の効果を発揮したと考えられる。一方で、学級担任と支援員との打ち合わせ時間が十分に取れているとはいえない状況である。	・学級担任との連携をより強化し、双方の密な情報共有を通じて、より適切な支援の在り方を検討する必要がある。 ・個々の支援対象児童の習熟度に配慮したきめ細かな支援を行うため、継続して支援員の能力の向上に努める必要がある。

今後の取り組み方針

・勤務日のうち1単位を打ち合わせ等の時間に充てるほか、定期的に学級担任等と連絡調整の時間を設け、支援の対象や内容について検討を行うなど、連携の強化を図る。
・支援員の資質向上を図るため、町主催で支援に関する意見交換会や事例検討会等の研修を定期的に開催する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,710	7,708	6,166	1,542	2



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、基礎学力向上学習支援員を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○予定した支援員が確保できず、不用が生じたものの、予算規模は、事業を推進するうえで妥当な規模であったと考える。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-③	特別支援教育支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－(2)－ウ
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進 Ⅲ－3－(1)

事業内容

特別な支援を要する児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図るため、特別支援教育支援員を各学校へ配置し、多様な要望に対応したきめ細やかな支援を行う。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	36,819	39,088	36,256	46,042	36,877
	(b) 予算現額	36,455	35,519	31,372	28,768	36,877
	(c) 増減額 (b-a)	−364	−3,569	−4,884	−17,274	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	36,455	35,519	31,372	28,768	36,877
B. 執行済額		31,616	29,453	31,372	27,112	33,926
うち交付金充当額		25,292	23,562	25,097	21,689	27,141
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率 （%） (B/A)		86.7%	82.9%	100.0%	94.2%	92.0%

予算の状況の説明　産休補充等により年度途中に2名雇用したため、時給や手当等の支給額の変更から2,951千円の不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
特別支援教育支援員を配置（名）	目　標	小学校13 中学校2	小学校11 中学校3	小学校12 中学校3	小学校10 中学校2
	実　績	小学校11 中学校2	小学校10 中学校3	小学校8 中学校2	小学校10 中学校2

達成状況説明　・目標どおり小学校10名、中学校2名の計12名を配置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（2年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（6年度）
特別支援教育支援員の対応に満足していると回答した対象児童生徒の保護者の割合（%）	目　標		89	80	80	
	実　績		78	52	72.4	

進捗状況説明　・支援を受けている児童生徒107人の保護者に満足度に関するアンケートを実施した結果、特別支援教育支援員の配置により、「満足」または「やや満足」との回答が、前年度より20.7%増の72.4%と改善されたが、依然として目標値には達していない。

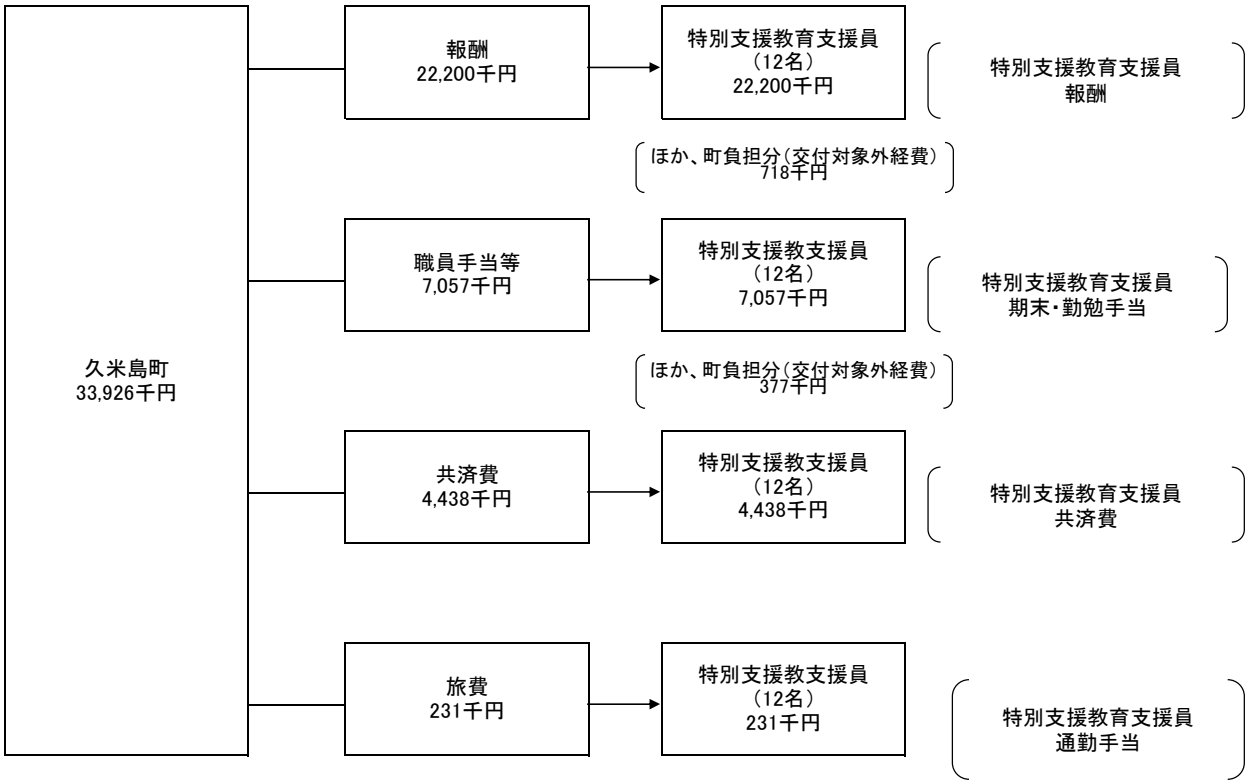
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・支援員の配置に対する満足度が向上した要因として、支援員の役割について町広報誌で周知したことや、支援員を配置したことで児童生徒の成長を実感できた保護者が多かったことが挙げられるが、保護者の配置希望に対して対応できていないことや、対象児童生徒への支援が十分でなかったことが目標値を下回った要因として考えられる。 ・特別な支援を必要とする児童生徒や、県立支援学校への就学が望ましいと判定される児童生徒が増加傾向にあり、年度途中の増員要請があるなど必要性が増している。	・今後も町広報誌等で支援員に関する情報を周知していくとともに、支援内容について、保護者アンケートから得られた内容を検証していく必要がある。 ・年度途中の支援員の増員要請に対する対応を考える必要がある。

今後の取り組み方針

・保護者連絡ツールや日曜参観等を活用し、支援員の役割や支援内容について積極的に情報発信を行うことで、保護者へのさらなる周知を図る。
・保護者アンケートで寄せられた要望について、適宜、対応策等を検討するミーティングを開催し、その後のより良い支援につなげる。
・年度途中の支援員の増員について、次年度の計画立案前に、支援対象予定児童生徒を学校と共有することで、予めおおよその人数を把握し、適正な配置につなげる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
35,021	33,926	27,141	6,785	1,095



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、特別支援教育支援員を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、時給や手当等の支給額の変更伴い確保した予算の執行残が生じた。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-④	小中アシスト相談員事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－（2）－イ 豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	令和4～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容

児童生徒の社会的自立に向けて不登校の児童生徒の登校復帰を促進するため、アシスト相談員を小・中学校に配置し、学校とアシスト相談員協働で不登校の児童生徒が登校できるよう支援する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,367	5,213	6,399	7,032	
	(b) 予算現額	2,399	4,633	6,399	7,032	
	(c) 増減額 (b-a)	32	−580	0	0	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	2,399	4,633	6,399	7,032	
B. 執行済額		2,013	4,633	5,817	5,978	
うち交付金充当額		1,610	3,706	4,653	4,782	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）（B/A）		83.9%	100.0%	90.9%	85.0%	

予算の状況の説明　当初計画に対する勤務内容に変更があったことから、職員手当及び社会保険料に582千円の不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
アシスト相談員を配置（名）	目　標	1	2	2	2
	実　績	1	2	2	2

達成状況説明　・計画どおりアシスト相談員を2名配置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（2年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
不登校率の減少（ポイント）※R7からポイント表示	目　標		4		3.1	
	実　績		6		3.2	
登校復帰児童生徒数（人）	目　標			2		
	実　績			7		

進捗状況説明
・不登校率を前年度から3.1ポイント減少させるという目標については、目標を達成した。
・成果目標について、R6は登校復帰児童生徒数としていたが、児童生徒数は毎年度変動するため、改善状況の検証が難しいことから見直しを行い、不登校者数減少率を成果指標とした。

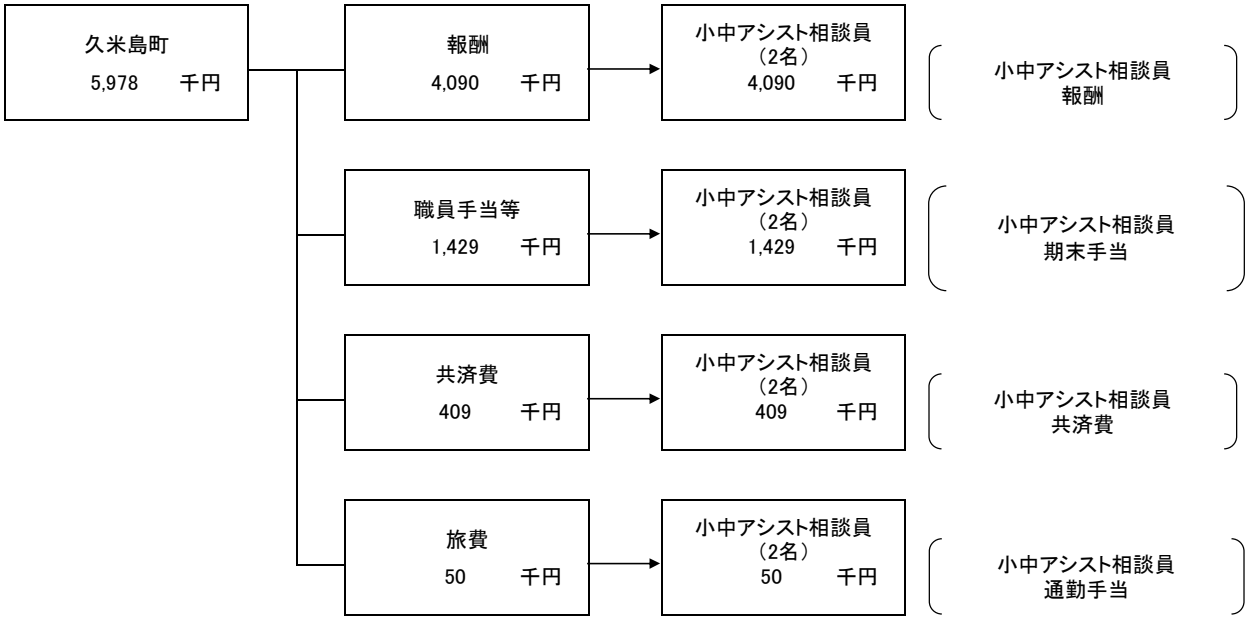
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・アシスト相談員や学校等、関係機関の連携により、個々の関わり方を協議したうえで積極的な家庭訪問等を実施したことが、目標を達成した要因と考えられる。 ・不登校児童生徒の支援ケースは多様化しており、勤務時間外の支援を要請されるケースがあった対応はできなかった。	・対象学校及び関係機関が連携した取り組みを実施しつつ、不登校の未然防止のため、初期対応の段階から関わることが必要がある。 ・勤務時間の範囲内で支援できるよう、登校支援の体制のあり方を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・アシスト相談員が各学校との連絡体制を構築し、学校管理職、担任、養護教諭等との連携により、素早く初期対応をとることで登校復帰につなげる。
・アシスト相談員は登校後の支援が職務となっていることから、各学校に職務内容を周知し、勤務時間内で支援ができるよう、より有効的なアプローチを検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,978	5,978	4,782	1,196	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、小中アシスト相談員を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したが、勤務内容の変更に伴い、職員手当及び社会保険料の支給額の変更から不用額が生じた。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-⑤	学校ICT活用支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア 確かな学力を身に付ける学校教育の充実
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	令和5～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	ICT活用により分かりやすい授業を実施するため、教職員の効果的なICT活用を支援するICT支援員を配置する。また、児童生徒の１人１台端末の活用に適した机上空間を確保するためデスク天板拡張備品を整備する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（令和　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況 (a) 当初予算額	6,600	6,600	6,600		
予算の状況 (b) 予算現額	54,296	9,621	6,600		
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	47,696	3,021	0		
予算の状況 (d) 繰越額	0	0	0		
予算の状況 A. 計 (b+d)	54,296	9,621	6,600		
B. 執行済額	54,296	9,621	6,402		
うち交付金充当額	43,436	7,696	5,121		
次年度繰越額	0	0	0		
執行率（%）(B/A)	100.0%	100.0%	97.0%		

予算の状況の説明：概ね事業計画どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ICT支援員を配置（町内８小中学校を巡回）（名）	目標	1	1	1	
	実績	1	1	1	
デスク天板拡張ツールを整備（個）	目標		688		
	実績		688		
町内８小中学校に電子黒板等をICT機器整備（台）	目標	52			
	実績	52			
サービスデスク設置	目標	52		設置	
	実績	52		設置	

達成状況説明：
・ICT支援員を１名配置し、各学校へ現地訪問等を行った。
・支援員が不在の際にも対応可能な体制として、サービスデスクを設置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（R5年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（R9年度）
ICT活用により授業がわかりやすかったと答えた児童生徒の割合（%）	目標	80以上	80以上	80以上	80以上	
	実績		85.4	83.6	83.6	

進捗状況説明：ICT活用に関するアンケートを各小中学校の児童生徒向けに実施し、501名の回答を集計した結果、目標値を上回る回答が得られた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ICT支援員や、サポートデスクによる支援により、電子黒板をはじめとするICT機器を活用した分かりやすい授業を実施できたことが目標値を上回った主な要因と考えられる。一方、ICT活用により授業がわかりやすかったと回答しなかった児童生徒もわずかに生じた。	・GIGAスクール第２期や、クラウド活用の拡大により、支援内容の高度化が求められる。それに対応するため、訪問型の支援に加え、リモートによる画面共有や遠隔操作を活用した、即応性の高いサポートが必要である。

今後の取り組み方針

・ICT支援員の学校訪問時以外の支援としてサポートデスクを有効的に活用し、ICT機器を導入した分かりやすい授業が実施できるように促していく。また、遠隔での効果的な支援の実現のため、リモート支援などを実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,402	6,402	5,121	1,281	0

久米島町
6,402千円
→
委託料
6,402千円
→
㈱学映システム
6,402千円

（久米島町学校ICT活用支援事業委託）

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	地域型就業意識向上支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（2）ーウ 個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成30～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)

事業内容

児童生徒を対象としたキャリア教育等を実施し、児童生徒に産業や職業の魅力を伝え、就業意識の向上を図ることで将来の沖縄を担う人材の育成につなげる。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,344	8,946	7,348	7,706	8,077
	(b) 予算現額	7,620	7,491	6,980	6,839	8,077
	(c) 増減額 (b-a)	−724	−1,455	−368	−867	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	7,620	7,491	6,980	6,839	8,077
	B. 執行済額	7,620	6,556	6,259	6,805	7,690
	うち交付金充当額	6,096	5,244	5,007	5,444	6,151
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率（%）(B/A)	100.0%	87.5%	89.7%	99.5%	95.2%

予算の状況の説明　委託業務における人件費が当初計画を下回ったことに伴い不用額（387千円）が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ジョブシャドウイング（小）	目　標	実施	実施	実施	実施
	実　績	実施	実施	実施	実施
インターンシップ（高）	目　標	実施	実施	実施	実施
	実　績	内容を変更して実施	実施	実施	―
職場体験（中）	目　標	実施	実施	実施	実施
	実　績	他内容を変更し実施	実施	実施	実施
職業人講話（小中高）	目　標	開催	実施	実施	実施
	実　績	内容を変更して実施	実施	実施	実施
わくわくワーク（就業体験型イベント）（小）	目　標	実施	実施	実施	実施
	実　績	実施	実施	実施	実施
グッジョブ連携協議会	目　標	開催	開催	開催	開催
	実　績	開催	開催	開催	実施
追跡調査	目　標	実施	実施	実施	実施
	実　績	実施	実施	実施	実施
動画編集・プログラミング授業(中)	目　標			実施	実施
	実　績			実施	実施

達成状況説明

・ジョブシャドウウイング（小）は、13事業者が児童を受入れた。
・インターシップ（高）は、県のプログラムや外部企業・大学等が独自に交通費支援を拡充しているため、町支援は休止した。
・職場体験（中）は、22事業者が生徒を受入れ実施した。
・職業人講話は、小学校6校、中学校2校にて8回実施した。進路講話では高校に3事業所3名の講師を派遣して実施した。
・わくわくワークは、11事業所が参加し、就業体験型イベントを全小学校(6校)合同で実施した。
・グッジョブ連携協議会は、商工会、観光協会、校長・教頭会など関係する機関が参加して2回開催した。
・事業効果を検証する追跡調査は、高校3年生を対象に実施した。
・アントレプレナーシップ講座を、中学生高校生を対象に実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
就業に対して理解が深まったと回答した児童生徒の割合（%）	目　標		80以上	80以上	80以上	
	実　績		94	90	96	

進捗状況説明

・就業に対して良い印象を抱いた割合は小学生が96%、中学生が92%、高校生が100%となり、小学校と高校で平均90%で目標値を上回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・小中高いずれの段階においても、就業に対する理解が深まったと回答した児童生徒の割合は平均96%となり、例年を上回る結果となった。特に、地域の事業者と連携した体験的な取り組みにより、働くことへの具体的なイメージの形成に寄与したと評価できる。 ・受入れ事業所は年々人手不足となっており、小学校ジョブシャドウイングは例年各学校で対応してもらっていたのを今年から島内小学校6校を3校合同で2回開催し、中学校職場体験は2校合同で1回にまとめて開催した。	・引き続き、発達段階に応じたキャリア教育の内容や関わり方の見直しが必要である。特に中学生に対しては、職業体験の意義や将来とのつながりをより具体的に実感できるような工夫が求められる。　・また特に高校生に対しては、引き続き地域産業の魅力や将来性を伝えるとともに、地域で働くことが自身のキャリア形成とどのように結びつくのかを主体的に考えさせる取組を推進する。

今後の取り組み方針

・小学生には働くことへの関心の高さを維持・発展させるとともに、中学生においては意識向上を図るため、発達段階に応じた段階的かつ連続性のある取組を強化する。具体的には、身近な課題や地域の実情に目を向けさせ、課題解決に主体的に関わる学習機会を確保するとともに、職業体験や地域人材との交流を通して、働くことの意義や将来とのつながりを実感できるようにする。　・高校に関してはこれまでのように、島内で就業している久米島高校卒業生を招聘することで久米島で働くイメージの向上に繋げる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,735	7,690	6,151	1,539	45

久米島町
7,690千円

→

委託料
7,690千円

→

(株)JOY ON
7,690千円

（久米島町地域型就業意識向上支援事業業務委託）

（ほか、町負担分（交付対象外経費）45千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザルにより実績、ノウハウ等を勘案した上で随意契約により選定しており妥当であると考える。 ○予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-②	ホームステイ等派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア 国際感覚を身に付ける教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	令和5～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-7
事業内容	児童・生徒に国際的な視野を持たせるため、次代を担う小・中学生に、島内在住外国人との交流や海外ホームステイを通じた英語の実践や異文化に対する理解を深める機会を提供する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,736	4,977	1,709		
	(b) 予算現額	1,877	1,908	1,793		
	(c) 増減額 (b-a)	141	-3,069	84		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	1,877	1,908	1,793		
B. 執行済額		1,877	1,808	1,793		
うち交付金充当額		1,502	1,446	1,434		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	94.8%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明	概ね計画どおりに執行できた。					

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
海外ホームステイ派遣（名）	目　標	2	2	2	
	実　績	2	2	2	
島内在住外国人との交流（名）	目　標	12	12	12	
	実　績	10	12	12	

達成状況説明
・海外ホームステイに中学生2名を派遣することができた。
・島内在住外国人との交流に小学生12名派遣することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
（中学生：海外ホームステイ派遣）国際的な視野が広がったと回答した生徒の割合（%）	目　標		80	80	80	
	実　績		80	85	100	
（小学生：島内在住外国人との交流）英語に対する学習意欲が向上したと回答した児童の割合（%）	目　標		85	80	80	
	実　績		85	85	100	

進捗状況説明
（中学生）
・参加した生徒に対してアンケートを実施したところ目標を上回った。
（小学生）
・参加した児童に対してアンケートを実施したところ目標値を上回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（中学生） ・学習の進捗状況については、語学力に応じたプログラムを提供することができた。特に、座学にとどまらず屋外でのアクティビティを取り入れたことにより、生徒がより意欲的に挑戦する姿勢が見られたことが、目標を上回った主な要因であると考えられる。 （小学生） ・外国人家庭の中で英会話を体験することにより、英語を身近に感じながら楽しく学ぶことができた。また、島内の散策や琉球料理の調理など、郷土に触れながら英語を体験できるプログラムとしたことが、目標を上回った要因であると考えられる。	（中学生） ・参加した生徒の意見や感想を踏まえ、プログラム内容の改善を行い更に魅力的な内容としていく必要がある。 （小学生） ・事業終了後において、保護者の中には本事業の実施を認知していなかった事例が見受けられた。児童の外国語学習への興味・関心を一層高めるため、学校内における周知方法の強化を図る必要がある。

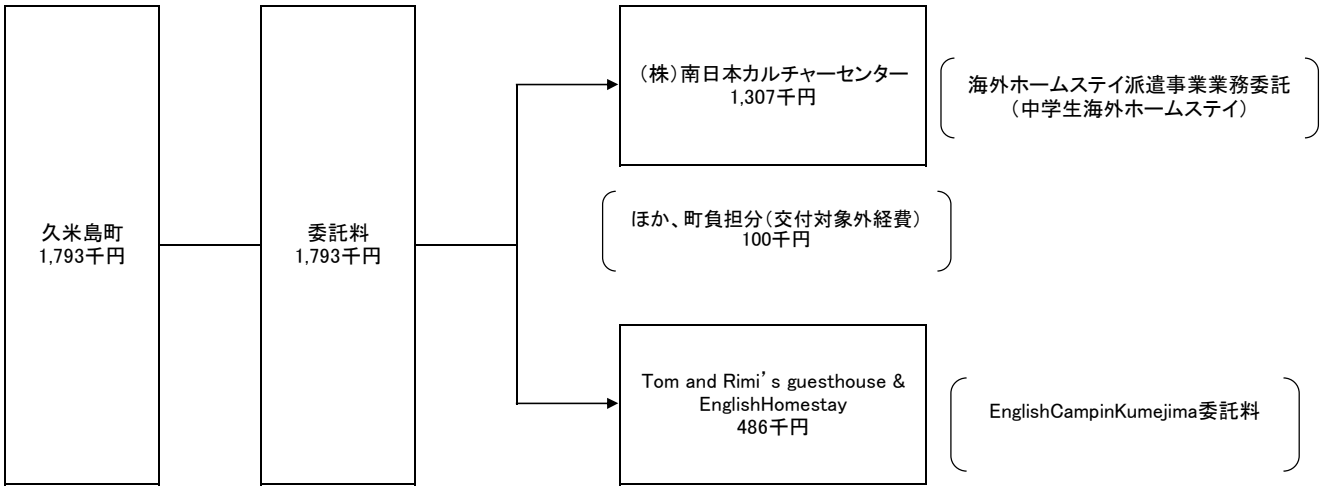
今後の取り組み方針

（中学生）
・効果を高める方法として、屋外でのアクティビティの有効性を把握できたが、気象条件等に影響を受けるプログラムであるため、代替案を予め設定しておくほか、参加した生徒の意見等を参考にプログラム内容の変更を進めていく。

（小学生）
R8年度においては、より多くの児童の参加を促進するため、募集方法の見直し及び周知の強化を図る。また、事前・事後学習の充実を図り、事業効果の一層の向上及び継続的な学びの定着につなげる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,893	1,793	1,434	359	100



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%程度であり適正な規模であった。 ○受益者である児童生徒は総事業費の2割程度を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか、実績書類により確認し、適正と判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-③	久米島現代版組踊推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-イ 文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(3)

事業内容	久米島の歴史・文化に対する地域住民等の興味・関心を高め、保存・継承につなげるため、小中高生を中心とした地域の若者達による本町の歴史を題材とした舞台「現代版組踊」の公演等を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H30年度	R1年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,009	4,904	5,343	5,343	3,250
	(b) 予算現額	5,009	4,994	5,343	6,058	6,400
	(c) 増減額 (b-a)	0	90	0	715	3,150
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	5,009	4,994	5,343	6,058	6,400
B. 執行済額		5,006	4,994	5,343	6,058	6,400
うち交付金充当額		4,004	3,995	4,275	4,846	5,119
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率 （%） (B/A)		99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画どおり執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R1年度	R5年度	R6年度	R7年度
現代版組踊り公演（回）	目　標		2	2	1
	実　績		2	2	3
・各種イベントへの出演（回）	目　標	12	6	6	6
	実　績	15	8	8	11
・参加児童生徒数（人）	目　標	25前後			
	実　績	36			
・自主開催に向けた指導者の育成（人）	目　標				
	実　績				

達成状況説明：
・久米島の小中高生50名による、久米島の歴史的遺産にスポットをあてた舞台（現代版組踊）の公演を久米島町内で1回、那覇市内で1回、クルーズ船で1回開催した。
・夏まつりや車エビフェスタ等の島外から観光客が多数訪れる催しに11回出演し、ダンス等を披露することで、島の歴史的文化として地域の魅力を発信することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
久米島の歴史・文化に対する興味・関心が高まったと回答した舞台公演来訪者の割合（%）	目　標		80	80	80	
	実　績		80	90	97	
観覧者数（2公演の合計）（名）※～R1年度	目　標					
	実　績					
取組に参加したことで久米島の歴史文化に関心を持ったと回答した参加した児童生徒の割合（%）※～R1年度	目　標					
	実　績					

進捗状況説明：
・小学生、中学生、高校生計50名によって、12月に久米島町内、那覇市内の各会場において舞台公演を開催したほか、今年度は初のクルーズ船での公演も実施した。島内の地域行事やイベントに11回出演しダンス等を披露したことにより目標を達成できた。

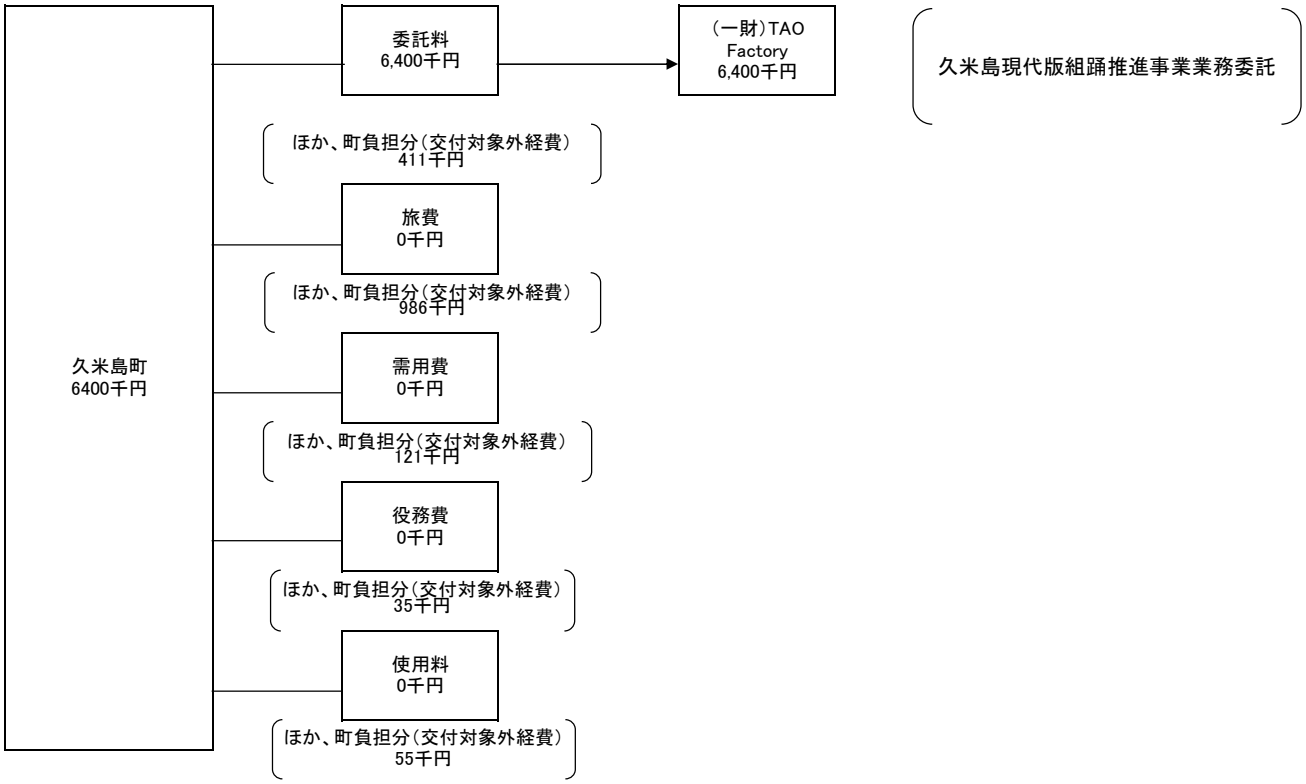
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・久米島の歴史・文化に対する興味・関心が高まったと回答した舞台公演来訪者の割合は97%と目標値を上回った。要因としては演技力、演出構成が向上したことが考えられる。	・引き続き演技指導、演出指導を受け、来訪者が満足する舞台を作り上げる必要がある。

今後の取り組み方針

・久米島の歴史・文化に対する興味・関心が高まったと回答した舞台公演来訪者数の割合90%以上を維持することができるよう、平準化した定期の稽古、質の高い稽古を実施することで、演技力や演出構成の更なる向上を図る。
・舞台以外では、町民講座の史跡巡りをメンバーでガイドできるように勉強会を実施するほか、ダンス以外の演技でイベント出演できるよう短編舞台の制作検討を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,008	6,400	5,119	1,281	1,608



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○不用額はなく適正な予算規模であった。 ○チケットを販売し、その収入は全額を事業費に充てている。 ○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか、実績書類により確認し、適正と判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-④	文化遺産保存活用事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア
					沖縄文化の継承・発展・普及
担当部課名	久米島博物館	事業実施（予定）年度	平成24～令和11年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(3)
事業内容	古くから中国、東南アジア諸国等との交易・交流を通じて形成された沖縄独自の歴史・文化（古文書）を保存・継承するため、古文書の修復、翻刻及び口語訳を行う。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,572	11,362	8,765	6,643	8,518
	(b) 予算現額	10,547	11,362	8,752	6,644	8,518
	(c) 増減額 (b-a)	-25	0	-13	1	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	10,547	11,362	8,752	6,644	8,518
B. 執行済額		10,547	11,302	8,752	6,644	8,517
うち交付金充当額		8,437	9,042	7,001	5,315	6,813
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	99.5%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	計画どおり執行できた。					

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R6年度	R7年度
古文書修復件数（件）	目　標	230	229	100	100
	実　績	230	229	100	100
・翻刻・口語訳件数（点）	目　標	30	30		30
	実　績	30	30		30
・修復資料速報展示	目　標	実施	実施		
	実　績	実施	実施		

達成状況説明：事業実施により古文書資料100件の修復、30件の翻刻・口語訳を行い、目標数値を達成できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R6年度	R7年度	目標値（R8年度）
古文書修復件数（件）	目　標			100		
	実　績			100		
修復文書速報ロビー展見学者数（人）	目　標		6,319以上		6,320以上	
	実　績		2,780		6,684	
修復を行った古文書の調査利用件数(件)	目　標		120以上		53	
	実　績		0		70	
修復を行った古文書の調査利用人数（名）	目　標		5		5	
	実　績		2		5	

進捗状況説明：
・本事業で修復を行った古文書について、目標を上回る件数の調査利用があり、調査利用人数についても目標値を達成した。
・ロビー展の見学者数も目標値を上回った。

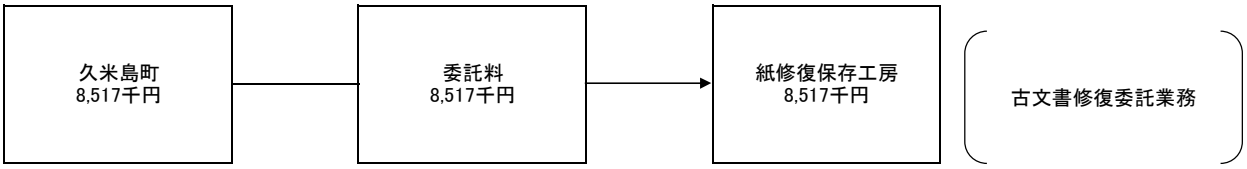
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・上江洲家関係資料が国の重要文化財に指定されたことにより、久米島の古文書に対する注目が高まったことや、R8年度刊行予定の久米島町史に関連した調査が活発に行われたことが、ロビー展の見学者数や調査利用件数・人数の目標を上回った要因と考えられる。	・成果品の適正な保存・管理に努めつつ、町民が取り組む勉強会や展示会、学術利用への利活用を図りたい。 ・予定より修復に時間を要する場合を想定し、履行期間に余裕をもつ必要がある。

今後の取り組み方針

・令和8年度に予定されている『久米島町史　資料編5文献史料編』の刊行にあわせ、本事業で修復された古文書について、展示・講座等の活動を通じてより広く利活用されるよう努める。また、調査利用者による更なる利活用を促すため、調査利用者との連絡体制を強化し、より充実した調査体制を整える。
・修復活動に時間を要する場合を想定し、可能な限り迅速な契約および執行に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,517	8,517	6,813	1,704	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約し、また企業組織、実績、知識等を勘案した上でで選定しており、妥当であったと考えている。妥当であったと考えている。 ○令和11年度までに目標を達成するための必要な事業規模を算出し、計画的に事業を実施しており適正な予算規模であった。 ○費目、使途については精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-①	航空運賃コスト負担軽減事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(8)-ア 人流・物流のｺｽﾄ低減と情報通信基盤の強化
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成30～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

入域観光客数の増加を図るため、航空事業者が観光客等に対して運賃を割り引いて販売した際の差額分を補填し、割高な渡航運賃を低減することで、観光客等が訪れやすい環境を整備する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　□委託　□補助　■負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	15,700	15,700	15,700	5,646	2,979
	(b) 予算現額	15,700	13,100	3,760	5,646	2,979
	(c) 増減額 (b-a)	0	−2,600	−11,940	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	15,700	13,100	3,760	5,646	2,979
	B. 執行済額	9,261	11,672	2,201	2,135	2,741
	うち交付金充当額	7,408	9,338	1,761	1,708	2,193
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		59.0%	89.1%	58.5%	37.8%	92.0%

予算の状況の説明

予算執行については、定期的な調整により執行率を上げる事が出来た。
不用額238千円は、観光入域客の実績が想定を下回ったことによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

年度活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
交流人口を対象とした航空運賃割引の実施	目　標	航空運賃の補助	航空運賃の補助	航空運賃の補助	航空運賃の補助
	実　績	航空運賃の補助	航空運賃の補助	航空運賃の補助	航空運賃の補助

達成状況説明

・9,581人の旅客者に対して航空運賃を補助した。

成果目標（指標）及び進捗状況

年度成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
久米島町への観光入域者数（人）	目　標		88527	130,000以上	130,000以上	
	実　績		84,779	98,082	92,862	

進捗状況説明

・目標は達成できなかったが、コロナ過以降徐々に回復の状況にある。

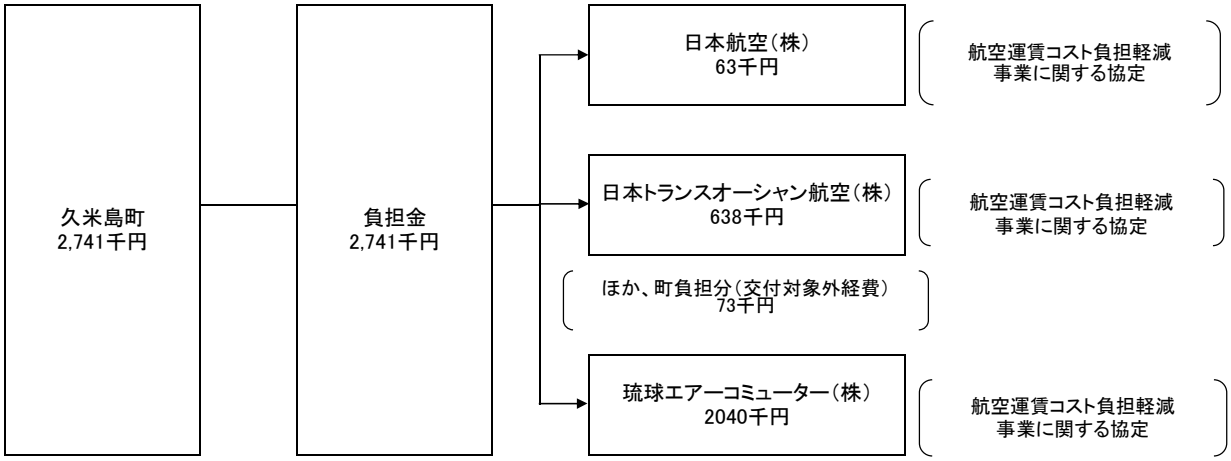
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・久米島町への入域者数が目標まで伸びなかった。他の地域における誘客の取り組みと比較し、受入体制やアプローチが必ずしも十分でなかったことが目標を下回った主な要因と考えられる。	・沖縄県観光入域客数は、コロナ過後緩やかに伸びていることを踏まえ、本事業の周知はもとより、誘客に関係する他の事業や関係機関との連携を強化し、観光誘客を図っていく必要がある。

今後の取り組み方針

・「第3次久米島町観光振興基本計画」に目標値として「令和10年度観光入域者15万人」を掲げている。この達成に向けて、各年度の観光入域客数を段階的に引き上げる必要があることから、航空事業者をはじめ、観光・サービス業の関係者や、沖縄県との連携をより一層強化し、誘客に資する取り組みを実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,814	2,741	2,193	548	73



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については久米島と沖縄本島を結ぶ航空会社3社を選定している。費用負担の協定書を締結のうえ実施しており、選定方法は妥当である。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、観光入域客の実績が想定を下回ったことにより不用額が生じた。 ○運賃が基準額を上回る場合に、当該運賃の2割を上限に低減し、残りは利用者負担としている。他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については、事業目的の観点から精算時に精査しており、適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-②	児童・生徒各種大会派遣支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（1）-ウ 公平な教育機会の確保と学習環境の充実
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（1）

事業内容

島外において開催される各種大会（スポーツ・文化）等への参加を通じて児童生徒に広い視野を持たせるため、同大会等の参加に要する派遣旅費に対する支援を行い、地理的・経済的な理由に左右されず多くの生徒が参加できる環境を整備する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,716	6,596	6,526	7,257	8,084
	(b) 予算現額	5,574	5,796	7,151	7,704	5,565
	(c) 増減額 (b-a)	-1,142	-800	625	447	-2,519
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	5,574	5,796	7,151	7,704	5,565
	B. 執行済額	4,983	5,507	7,151	7,470	4,905
	うち交付金充当額	3,987	4,406	5,721	5,976	3,923
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		89.4%	95.0%	100.0%	97.0%	88.1%

予算の状況の説明　生徒数減少により2校合同チームでの大会派遣が多くなったため、▲2,519千円減額補正したものの、660千円の不用が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
島外で開催される各種大会・コンクール等に参加する生徒に対し、派遣旅費の支援を行う（延べ人数・名）	目　標	590	573	638	424
	実　績	539	612	676	405

達成状況説明　・生徒数の減少により、派遣支援を実施した生徒数は目標値を下回ったものの、対象生徒に対して必要な支援を行うことができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
島外において開催される各種大会等に参加して視野が広がったと回答した児童・生徒の割合（%）	目　標		80以上	80以上	80以上	
	実　績		90	92	94	

進捗状況説明　派遣旅費の支援を受けた生徒に対してアンケートを実施したところ、肯定的意見が大多数となり目標値を達成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内の中学校は2校となっていることから、大会等への派遣は生徒にとって貴重な体験となっている。子育て世帯の経済的な事情に左右されず、生徒が大会等に確実に参加できるように本事業による支援が十分に行き届いたことが目標を達成した主な要因と考えられる。 ・派遣人数は減少したが、2校合同での練習や派遣を通じ、2校間の交流が深まったことがアンケートの数値上昇に関連していると推測する。	・生徒数の減少に伴い、一人の生徒が複数の部活動において各種大会等に出場するなど、一人当たりの渡航回数が増加していることや、昨今の物価高騰に伴う旅費の高騰が生じていることを踏まえ、保護者の経済的な負担の増大を抑え、引き続き生徒が島外の大会等に出場できるように支援する必要がある。

今後の取り組み方針

・物価高騰に伴う保護者負担の増加の実態等を把握しながら必要に応じて補助金交付要綱の見直しを行い、生徒が島外の大会に確実に出場できるように取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,934	4,905	3,923	982	29

久米島町 4,905千円 → 補助金 4,905千円 → 学校 4,905千円 → 保護者 4,905千円

（児童・生徒各種大会派遣支援事業補助金）

（ほか、町負担分（交付対象外経費）29千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は交付要綱に基づき決定しており、妥当である。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、生徒数減少に伴う派遣人数の減により不用額が生じた。 ○負担金は「地区大会：渡航費1/2、宿泊費1泊3,000円上限」「県大会：渡航費実費、宿泊費5,000円上限」「全国大会：渡航費1/2」としており、これを上回る分を自己負担しているため妥当であった。 ○費目・使途について実績報告書で審査し、真に必要なものと判断した（類似する補助が出るものについては対象外としている）。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-③	幼稚園児預かり保育運営事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-ア 子ども・子育て支援の充実
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	令和6～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-4-(2)
事業内容	就学1年前の子どもを安心・安全にを預けられる環境を整え保護者の育児に係る負担感を軽減するため、幼稚園・預かり保育の運営に必要な幼稚園教諭・ヘルパー、預かり保育指導員・ヘルパーを島外から誘致するほか、預かり保育を実施する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度	R7年度			
予算の状況	(a) 当初予算額	13,869	18,264			
	(b) 予算現額	8,011	18,264			
	(c) 増減額 (b-a)	-5,858	0			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	8,011	18,264			
B. 執行済額		4,316	18,254			
うち交付金充当額		3,452	14,603			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		54%	99.9%	100.0%	84.1%	99.9%
予算の状況の説明	計画どおり執行できた。					

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
預かり保育の実施（園）	目　標	実施	2		
	実績	実施	2		
島外幼稚園教諭・ヘルパー、預かり保育指導員・預かり保育ヘルパーの渡航費・転居費の支援（名）	目　標	1			
	実　績	0			
達成状況説明	・R6年度は預かり保育の職員不足に伴い1園運営としていたが、今年度においては人材確保ができたことで2園で実施できた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（R年度）	R6年度	R7年度	R8年度	目標値（13年度）
安心・安全に子どもを預け、育児の負担感が軽減されたと回答した保護者の割合（%）	目　標		80以上	80以上		
	実　績		90	100		
幼稚園教育に満足していると回答した保護者の割合（%）	目　標		80以上			
	実　績		90			
進捗状況説明	・預かり保育を利用している保護者25名へアンケートを実施し、育児の負担感が軽減されたとの回答が100%となり目標値を達成した。					

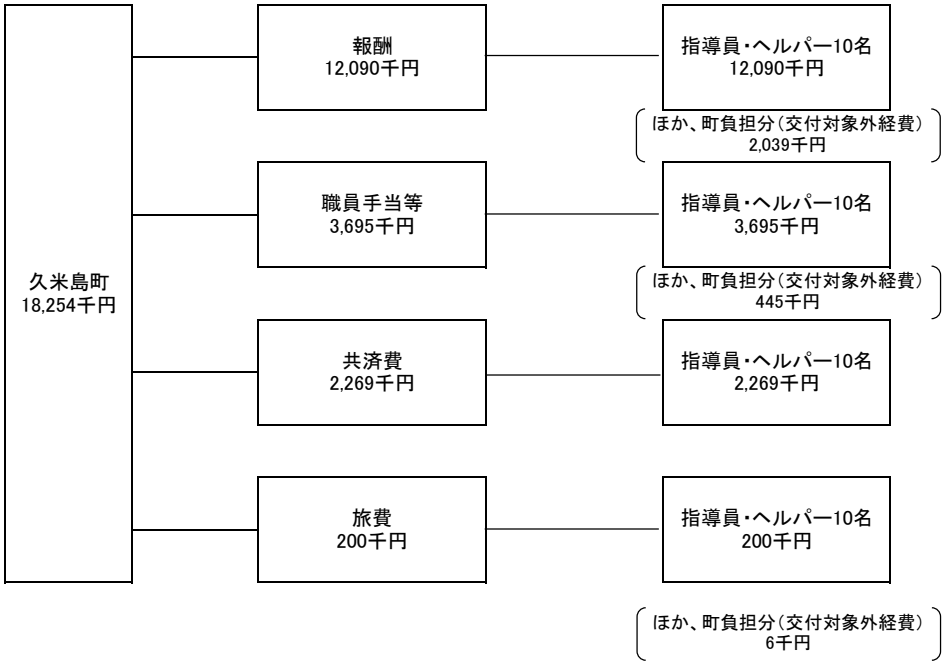
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・概ね対象児全員を受け入れ、保護者の育児負担の軽減に努めたことが目標値を上回った主な要因として考えられる。一方、有資格者や経験者の雇用が難しく、保育の質に課題がある。	・保育の質向上のため、研修会等の実施が必要である。 ・有資格者の職員配置に向け、募集方法の見直しが必要である。

今後の取り組み方針

・保育の質向上を目的とし、外部講師による研修会を実施する。
・有資格者の確保のため、求人募集を早期に設定することや、募集回数を増やすことで職員確保につなげる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
20,744	18,254	14,603	3,651	2,490



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、会計年度任用職員（指導員・ヘルパー）を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○費目・使途についても、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-④	離島交通課題対策事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(8)-エ 離島を支える安全・安定的でシームレスな交通体系の構築
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	令和7～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9-2

事業内容

公共交通、観光バス及び各産業の資材等を運搬するトラックの運行を維持することで、住民並びに観光客の利便性の確保と、各種産業の経済活動の下支えを図るため、当該運行のドライバーに従事する意欲のある者に、一定の条件を付して大型免許の取得に係る費用の一部を支援（補助）する。

効果発現年度

■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R7年度	R8年度	R9年度	R9年度	R10年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,911				
	(b) 予算現額	4,911				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	4,911				
B. 執行済額		436				
うち交付金充当額		348				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		8.9%				

予算の状況の説明

補助の申請者数が見込みを下回り1名であったため、大幅に不用額（4,475千円）が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
大型免許を取得する者への補助（名）	目　標	5			
	実　績	1			

達成状況説明

・1名の大型2種免許取得者への補助を行ったが、目標の5名を下回った。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（R年度）	R7年度	R8年度	R9年度	目標値（　年度）
公共交通（町営バス）、観光バス、資材等を運搬するトラックを運行するドライバーへの従事者数	目　標		5			
	実　績		1			

進捗状況説明

・本事業を活用し、大型2種免許を取得した1名が町内の観光バス事業者ドライバーとして従事することとなったが、応募者数が少なく、目標を達成することができなかった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町HP、町LINEにて周知を行ったが、応募者数が少なかったことが目標を下回った要因となった。 ・目標には届かなかったが、本事業により大型2種免許を取得したことで、観光バスドライバーが1名従事したことは大きな効果である。	・町HP、町LINE以外に、各関係機関（商工会、観光協会、事業者）と連携して事業実施の周知を強化していく。

今後の取り組み方針

・本事業の認知度向上を図るため、町公式ホームページ、LINE、広報誌等の各種媒体による情報発信に加え、コミュニティラジオや関係機関（商工会、観光協会等）と連携した情報発信等、周知を強化する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
484	436	348	88	48

久米島町 436千円 → 補助金 436千円 → 個人（1名）（大型免許取得者）436千円

（離島交通課題対策事業補助金）

（ほか本人負担分（交付対象外経費））

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金は交付要綱に基づき選定しており、妥当であったと考える。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、申込が伸び悩み大幅な縮小が生じた。 ○費目・使途についても、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	